

稲垣さんの趣味は？これまでに感銘をうけた書物は？

趣味は特に無いです。嗜好物は毎晩日本酒をたしなむ程度です。開祖の口述された「合気真髓」や「武産合気」を理解しようといろいろな本を読みました。安岡正篤氏、森信三氏、渡部昇一氏などの書籍、高橋信次氏の「心の原点」、出口日出磨氏「生きがいの探求・創造・確信」は開祖の口述されたものを理解するのに役立ちました。

若い方を指導するうえで稲垣さんが心掛けていることは？

- A 怪我をさせないよう、また楽しく稽古するよう心掛けています。合気道は型稽古なので、正しい形をゆっくり丁寧に指導する。正しい形が出来るようになったら、徐々に強度とスピードを増した稽古を指導する。また稽古を通して次のことも指導しています。
- 1、正しい礼法と道場マナー（相手・先輩・先生を敬う心、親・祖先に対する感謝の心、自然に対する畏敬の念、社会人としてのマナーを身に着ける）
- 2、忍耐力（稽古の辛さを我慢することにより、学校や会社または社会とのかかわりで起きる困難に耐える、強い精神力と身体をつくること）
- 3、相手に対する思いやりの心（お互いに鍛錬し、どんな人達とも楽しく稽古をすることにより、協調する心を養い、自分さえ良ければという心無くする）
- 4、創造する心。常に技の研究をすること

不動院寺報

不動院と檀家と

令和5年7月号
第8号
発行人 住職 片岡卓治
編集人 総代長 鈴木裕士

住職挨拶



今年、宗祖弘法大師御誕生千二百五十年にあたり、この慶事を奉祝し、当院では九月二十日から三日間、総本山である長谷寺への団参を予定しております。私が本山に登壇するのは今から六度目ですが、初めて長谷寺を訪れたのは今から四十年前の夏、僧侶の資格を取得するためでした。門前に着き、最初に目に飛び込んできたのが仁王門、その壮大さに感銘を受け、さらには御本尊である十一面観音像の威容には圧倒されました。夜になると登廊の灯籠に火が灯り、幻想的な雰囲気が醸し出されます。

毎朝、昭和寮から登廊を上がっていき、本堂でお勤めをしてから修行が始まります。朝から晩までお経を唱えていました。板の間に正座するのが何よりも辛かったです。三方が山に囲まれているので、とても蒸し暑く、もちろんエアコンなどありませんでしたが、夜は不思議とよく眠れました。

により創意工夫が生まれます。また永く続けることにより良き師匠・先輩・道友ができ、自分の人生を有意義なものに創っていくことに通じます。

若い人たちに、これからの人生へのアドバイスを！

これからの若い人たちは、勉学や仕事で海外とのかかわりが多くなっています。日本の文化・歴史を勉強して、それらを自分の精神性の中心に置き、他国の文化を受入れる度量を持つことは大事と思われまます。それには合気道が適しています。



私は現在に至るまで三百ヶ寺以上のお寺を訪ねてまいりましたが、長谷寺はその中でも五本の指に入る名刹と断言できます。季節ごと変化に富み、見どころがたくさんあります。また、特別な霊験を感じることもできるパワースポットでもあります。皆様も機会があれば是非一度訪れてみてください。

三學山 不動院 岩崎寺

末寺十三は何処に？

先号で不動院の末寺（マツジ、支配下にあったお寺）が江戸時代には十三あった旨案内し、また不動院のホームページでも紹介されています。平成十四年に発行された「岩間町史」にはお寺の名称は記載されているものの、その所在は大字のみ

岩間は合気道の聖地です。海外とのかかわりが出来た時は、直ぐに近くの道場に行き稽古に参加してください。直ぐに合気ファミリーの一員になれ、有益な情報が得られ、勉学・仕事・生活面に生かされると思います。

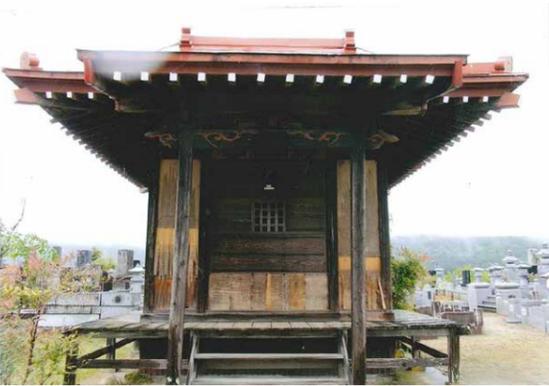
不動院からのお知らせ

○不動院新墓地の水道前にある駐車場を拡張しました。今までは四台程度のスペースでしたが、八台程度駐車できるようになりました。
なお、古塔婆入れも新設いたしましたので、ご利用下さい。
○鐘楼堂から南に約三十m先の墓地内に水道設備を設置いたします。お盆までには完成する予定となっております。

編集後記

「不動院と檀家と」も今回で第8号となりました。時々耳にする「良いですね」「楽しみにしています」等の言葉を励みに頑張っています。また、不動院の末寺の所在については、歴史研究家で同級生の光野しのぶさんからアドバイスをいただきました。この場を借りまして御礼申し上げます。

暑さがますます厳しくなる季節、檀家の皆様には体調管理にはくれぐれも用心されますように！
〔編集人〕 総代長 鈴木 裕士



榮町区内にある薬師堂

で詳細がわかりません。平成三年に発行された「図説岩間の歴史」によっておおよその場所が判明できました。
まず上郷地域には四ヶ寺があり、①泉蔵院は建物が残存し、東組区公民館と兼用中（元々は、現在より五十mほど上にあったとの説も）②羽黒山地蔵寺福性院は現在の大古沢区公民館付近③文殊院は仲通区にある現在の一心寺に、それぞれあったと言われ、残りの④常福院は場所が不明です。次に下郷地域でも同じく四ヶ寺があったとされ、⑤地福院は不動院の脇に⑥東光院は榮町区の薬師堂墓地の一角にあって、今も薬師尊が残っております。⑦正学院は現在の新渡戸区公民館北側に所在していて、現在は墓石が少々見られるだけ、⑧東福院は所在不明となっていますが、筆者（鈴木）の推定では、寺院の近くには墓地が多いこと並びに不動院が管理している墓地であることから、上町区の裏池近くにある爺ヶ窪墓地周辺にあったと思われるかがでしょうか？
泉地区では、廢寺となっている⑨愛宕山勝軍寺密蔵院がありました。当寺は五霊区で、現在の後藤家付近にあったとされ、現在も掘割の遺構が見られます。その他には⑩福寿院、⑪法光院、⑫宝蔵院があったとされていますが、それぞれ所在した場所は不明です。なお、福寿院と法光院については、不動院の本寺であった八郷にある雲照寺の門徒との記述も見られ、その時々におけるお寺の力加減を表しているかと思われます。
市野谷区には市野谷公民館脇に⑬常善院があった。平成六年に地元の方を中心とした浄財により観音堂が新たに建立されています。

不動院ガイド イチヨウの木



今では接ぎ木や挿し木により、銀杏(実)が成るメス木は珍しくありませんが、筆者(鈴木)が幼少のころは探すのが難しい位であり、それだけに銀杏は貴重な存在で、食糧難の時代、銀杏を食べる楽しみも想像できないほど大きいものがありました。第一分校在学時だったと思います。子供の足で一時間近くかけて不動院へ銀杏を拾いに行った記憶があります(収穫は数粒でした)。

銀杏の実には表皮が独特の匂いを持つことから敬遠されがちで、先号で紹介しました大阪市御堂筋の銀杏並木は当初メス木でしたが、その匂いが歩行者を悩ませたため、順次オス木に植え替えているとのこと。またご存知の方もおられるかと思いますが、銀杏はあまり食べすぎると食害を起すので、大人で一日十粒位迄がよろしいようです。

そして銀杏はイチヨウの「枝」だけに成るものと思っていました。皆さんはイチヨウの葉に実が成ることを知っていましたか？

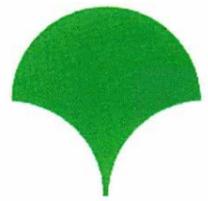


葉に実が付いている

百聞は一見に如かず、夏の終わりから秋にかけて稲田の西念寺へ行ってみてください。
①イチヨウの葉には加齢によって低下する血流を改善して、脳梗塞や動脈硬化

を予防したり認知機能の一部である記憶力を維持する効果があると言われています。・・・実験しておりませんので保証のかぎりではありませぬ。

②三億年〜二億年前の化石の中から、現在のイチヨウの葉と同じものが発見されており、イチヨウはシダ類やソテツなどと同じように、遙か昔から進化が見られない原始的な植物と言われております。



③このマークは何か判るでしょうか？
普段見慣れませんが、東京に縁がある方でしたら思い出されるかもわかりませぬ。
一見イチヨウの葉に見えませんが、本当はトウキョウの頭文字Tを図案化したもので、東京都のシンボルマークです。今はあまり見かけませんが、都庁本庁舎正面、都営バス前部、ゴミ収集車やガードレール代りの鉄柵にこのマークを見かけます。



東京のガードレールに見られるマーク

因みに東京都の木はイチヨウで、茨城県の木は梅、笠間市の木は桜です。

この人にインタビュー 今回は合気道の稲垣繁實さんです



世界140カ国、約160万人の愛好家がいると言われ、その中でも数少ない八段を取得されている他、栗の特殊栽培も手掛け、大変忙がしい中をインタビューに応じてくれました。

十二歳で合気道を始められたようですが、動機と当時の状況は？

私の両親は、昭和二十年に軍の命令で東京から岩間に工場を移転し、日立兵器(日立工機の前進)の仕事をするようになり、私は昭和二十一年一月に岩間で生まれました。私は只々ケンカに負けたくないので合気道を始めました。



当時の道場建物

昭和三十三年当時の道場付近は人家がほとんど無く、街灯も無く鬱蒼とした柵林で、稽古に通うのに勇気がいる場所でした。開祖(植芝盛平翁)

か会って話が出来たのは合気道のご縁の陰です。

開祖「盛平先生」の印象に残っていること、素晴らしかったことは？

我々は開祖のことは「大先生」とお呼びしていました。身体で申しますと開祖の目です。「我々は目を見開いて太陽を長く見続けることが出来ません、それと同じように「大先生」の目が光っていてじっと見ていられないのです。それと七十歳代半ばの「大先生」の胸は、昔の年老いた女性の胸のようにおっぱいが垂れ下がっていました。若いとき鍛えた筋肉でしょうか。それと断片的ですが、聞いた言葉が私の耳に残っています。「合気道は初めから勝っていることを学んでいる武道じゃ」「合気道は袈裟(みそぎわぎ)じゃ」「合気道で地上天国を作るのじゃ」「自分さえ良ければの心を持つては遺憾ぞ」等々・・・私の宝ものです。



のお住まいは道場と廊下でつながっている四畳半の居間と寝室からなる質素な佇まいでした。中学一年生の私は、大人の先輩方に混じって夜七時から八時まで稽古で、夏場は板の間でした。入門二年後頂いた初段の証書番号が七二三号ですから、合気道界全体でも会員数は少なかつたと思います。稲垣さんにとって合気道とは？

A

Q

「有意義な人生を歩むことができる羅針盤」と思っています。合気道の精神と言われる言葉を紹介いたします。「合気とは愛なり。天地の心を以てわが心とし、万有愛護の大精神を以て自己の使命を完遂することこそ武の道であらねばならぬ。合気とは自己に打ち克ち、敵そのものを無くする絶対的自己完成の道なり。而して武技は、天の理法を体に移し、霊肉一体の至上境に至る業であり、道程である。」があります。私なりに解釈すれば、天地の心とは愛そのものであり、慈悲の心です、太陽は貧乏人にも

A

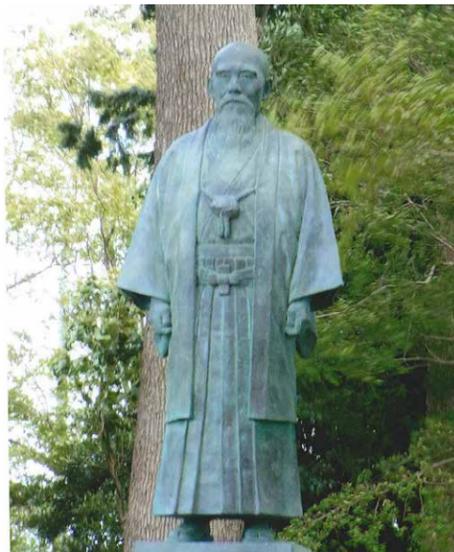
Q

合気道は試合をしません。危険な技なので試合ができないと言ったほうが正しいかと思えます。

合気道は国境を越えて色々な人と稽古をします。人種・宗教・思想や政治を超越した良い人間関係を作ることができます。私自身も合気道がなければ行くことのない国々(十五カ国)から招待されたり、先輩が米国務次官補になった時、ホワイトハウス見学に行く機会に恵まれたり、アメリカの俳優ステイブ・セガール氏と何度



例大祭には、各地・各国から大勢の方が



合気神社に建つ開祖の銅像